

2018 年度 センター試験 倫理（本試験） ワンポイント解説

第1問	問 1	空欄 a は、グローバル化の例なので、一国の経済が全世界に影響することになる。空欄bは、飢饉や貧困の救済なので福祉につながる。空欄cは、男女共同参画社会につながるの、性別役割分担は社会的・文化的性差(ジェンダー)に依拠するものとして批判される。
	問 2	青年期の自己形成過程においては、親からの自立が重要課題であるので、①「親との情緒的なつながりを深め」は不適切。また「親の価値観を内面化」はフロイトのいう超自我である。
	問 4	マズローによれば、人間には、低次のものから順に、生理的欲求・安全の欲求・所属と愛情の欲求・承認と自尊心の欲求・自己実現の欲求があり、低次の欲求が満たされると、人間はそれよりも高次の欲求を満たそうとする。
	問 5	①介護保険制度は家族の絆の強化とは無関係である。②育児・介護休業法は夫も育児と介護のために休業することを可能にするもので、「仕事に専念」するためではない。④政府は出生率の向上を目指しているの、少子化は望ましいとは考えられていない。
	問 6	②地球温暖化は二酸化炭素の増加が主因である。③予防原則とは、環境や人体に被害が生じかねない場合には科学的証明が不十分でも対処すべきという考え方。④酸性雨の原因は硫黄酸化物(SOx)と窒素酸化物(NOx)である。
	問 7	①2050 年の上位 3 か国には韓国も入っている。③韓国は、2015 年から 2050 年では 2 倍以上になっている。④2050 年の時点でインドは 20%を上回っていない。
	問 8	①引用文第 2 文に「政治的責任を引き受けるためではなく」とある。②第 5・6 文に、人道的活動には国際人道法という枠組みが必要とある。④第 8～10 文に、今日、人道的活動のための枠組みが正常に機能せず、人道支援が交戦国によって戦争の道具にも使われているとある。
	問 9	センの潜在能力とは、人が行うことのできる機能の組み合わせを意味しており、選択肢では「生き方の幅」として表現されている。個人の才能の実現とは異なる。また、生き方は幅があつて多様であるから、必ずしも②「財や所得の豊かさ」が求められるとは言えない。
	問 10	①A の第 4 発言では、「利己的動機があるから助け合いも生まれる」とある。②「結果が人のためにならないならばその行為に意味はない」は本文に記述なし。④B の第 3 発言には、「人助けしたいという純粋な善意は、利他的動機と言うべき」とある。
	第2問	問 1
問 2		①クルアーンはアラビア語である。②礼拝の方向はメッカである。④イスラーム教徒は、同じ神の教えを奉じるキリスト教徒とユダヤ教徒を啓典の民と称した。
問 3		①引用文第 2 文の礼儀や作為が性に備わっているという文は仮定であり、のちに否定されている。②第 1 文に、聖天子も暴君や大盗賊も性は同じとある。③第 5 文に、「生まれつきの性を変えて」とある。
問 4		アリストテレスは、万物には目的があるとする目的論的自然観をもっており、事物は偶然的に発展しないので③④は不適切であり、またその目的は形相の実現であるので①「質料の実現」は不適切である。

	問 5	①王道と霸道の区別は孟子である。②孔子は仁が不要であるとは言っていない。③大乘仏教の理想的人間は菩薩であって、阿羅漢ではない。
	問 6	②八正道も中道も輪廻とは直接関係しない。③④六波羅蜜は、のちの大乘仏教の主題であって、ブッダの八正道や中道とは直接関係しない。
	問 7	②キリストは神と契約していない。③人間には原罪があって、「罪のない本来の自己」とは言わない。④原罪のある人間には「善行を積む」ことはできない。
	問 8	ア)ブッダは諸法無我という言葉によって、不変の存在を否定している。イ)プラトンは、理性的部分が命じ、気概的部分と欲望的部分がこれに従うことで魂は秩序あるものとなると主張する。
	問 9	①模範に「学ばず」という記述は本文にない。②第 2 段落では、理想的人物を模範とすることが説かれ、第 3 段落では、人間が弱くて欲望に囚われやすいことが記されている。③第 3 段落には、人間は煩悩や欲望に囚われた弱い存在であるとされており、「欲望に囚われることのない存在」であるとは記されていない。④「模範は不要」であるとは記されていない。
第3問	問 1	②造物主はユダヤ教とキリスト教の神をいう。③神道の中心は祭祀であって、その効果は否定されない。④神とは、人間を崇ると同時に恵むものであって、人間の生活に関与しないということはない。
	問 2	ア)鑑真は中国の高僧で、来日して律宗や中国文化を伝えた。イ)綜芸種智院は空海の開いた民衆学校。ウ)一遍は高野山に詣でた際に、信不信や浄不浄の区別なく念仏札を配るべしという啓示を受けている。
	問 3	②日蓮は四箇格言で他宗派を厳しく非難しており、宗派間での融和を図ってはいない。
	問 4	消去法で解くべき問題。空欄 a の貝原益軒は、儒学者・教育家・本草学者で、庶民向けの教訓書も多く、晩年は『大疑録』で朱子学への疑問を表明した。空欄bの富永仲基は、神儒仏を批判的に検討し、歴史的観点から仏教を批判した加上説は有名。空欄cの荻生徂徠は、古文辞学を唱え、儒教の書は古代中国語で読解すべきであると考えた。
	問 5	①石田梅岩は、神道・儒教・仏教などを融合した教を説いている。②梅岩の授業は、無料かつ自由で、女性の聴講も可能だった。④梅岩は、商人の利潤追求を天理だとしている。
	問 6	①は新島襄である。②は中江兆民である。③は福沢諭吉である。
	問 7	三宅雪嶺は、盲目的欧化崇拝を批判し、日本の特色を発揮して人類の発展に貢献すべきことを訴えた。①の教育勅語とは直接的には無関係であり、②の人格主義や④の超国家主義とも異なる。
	問 8	①引用文第 5・6 文で、神の完全性が示されるので、欠点が指摘されるのは厭わないとあり、神の完全性が目指されていると言える。②「人々に弱さを克服する意志をもたせる」とは、本文に記述されていない。③「厳しい自己鍛錬」については、本文に言及されていない。
	問 9	①「その徳が人々に認められる」とは本文に記述されていない。②第 2 から第 4 段落までで「自己を見つめ直したり、自らの役割を模索したりすることについて記されており、第 5 段落では、「よりよい生や社会の実現を目指す決意」について触れている。③「自らの立場や役割を省みることなく」が誤り。④「神仏や師に全面的に依拠」という記述は本文にはない。
第4問	問 1	①人倫は、家族から市民社会を経て国家へと発展するが、市民社会は欲望の体系とも呼ばれ、内面的な道徳は含まれない。③人倫の喪失が生じるのは、欲望の体系である市民社会においてであって、国家ではない。④家族では、道徳はあっても自由はないとみなされる。

問 2	①「一般意志」はルソー。②知識や理論を道具とするのは、プラグマティズムのデューイ。③「(神の)見えざる手」はアダム=スミス。
問 3	a)の「唯物論」は、世界の根源にあるのは精神ではなくて物質であるとするマルクスなどの立場。b)の「情念」は、一般的には本能・欲望・感情の総称と考えられる。c)の「直観」と「概念」については、いずれも難解なカント用語であるが、簡潔に言えば、直観は感覚(感性)と関係し、概念は悟性と関係する。
問 4	ア)「知は力なり」はベーコンである。イ)ニュートンは、万有引力の法則という万物にかかわる力学的法則を発見している。ウ)カーソンは、『沈黙の春』で農薬の大量使用がやがては人体に悪影響を及ぼすと警鐘を鳴らした。
問 5	①③引用文では、第 3 文で「技の遊びはすぐに技を競う遊びへと変わり得る」と述べられており、技の遊びと競争の遊びの二つがあるのではない。②第 6 文で、「潜在的にはあれ、競争相手や観客が必要」とされているので、他人がその場にいらなくても構わない。
問 6	②言語をラングとパロールにわけたのは、構造言語学者のソシュール。③他人の欲望を自分の欲望とする、というのはラカンの説。④脱構築は、デリダの用語。
問 7	①人間を象徴(シンボル)を使う動物と定義したカッシーラーの考え。②人間は理性をもつ動物、というのは、リンネのホモ・サピエンス。③人間は道具を使って自然に働きかけつつ進化してきたというのがベルクソンのホモ・ファーベル。④人間の本質を宗教とするのは、ホモ・レリギオースという考え方。
問 8	本文は、第 2 段落で遊びが否定的に評価されたことを述べるが、第 3 段落では自由や創造性のあらわれであるとし、第 4 段落では遊びの社会性が考察されている。よって③が正解。